

山村遊休地等を活用したイタドリ・ウワバミソウの 省力化栽培について

林業試験場 特用林産部 坂口和昭

〔はじめに〕

山村地域の遊休地や林間の活用を図り、高齢者でも省力的に栽培できる山菜類の導入が望まれる中、有望品目であるイタドリ、ウワバミソウの栽培方法について検討した。

イタドリは、本県の郷土料理の食材の一つで加工品もあり消費量が多いが、乱獲や環境の変化、シカの食害などで品質の良いものが減少しており、栽培化への要望が高まっている。そこで、休耕田等を活用した効率的な栽培技術を確立するため、植栽株の形態、施肥、畝高、マルチなど育成方法別の栽培実証試験を実施した。

ウワバミソウは秋まで収穫できるのが特徴で全国で年間190トン生産されているが、山採りがほとんどであり栽培技術は確立されていない。本県でも溪流沿いの湿潤な林内に自生しており、スギ林内が栽培適地となる可能性があり、適正な栽培環境や育苗方法について検討した。

〔材料と方法〕

イタドリの植栽株は形態別に山引き株、地下茎苗、実生苗の3種類とし、平成22年3月に定植した。また、施肥の有無、畝高、マルチの有無による成長量、収穫量の比較を行った。

ウワバミソウは相対照度別に遮光ネットで被覆した圃場へ定植し、生育状況を調査した。また、育苗方法として、肉芽の大きさ別に大、中、小に3区分し生育を比較した。

〔結果と考察〕

イタドリは定植後3年目には、どの試験区も草丈長が180cmを超え、平成24年4月には収穫が可能となるまで成長した。施肥については、施肥区が無施肥区よりも生育が良好となった。収穫量は地下茎苗で多くなり、特にC-2区は21本、1,173gと最大の収量となった(表1)。

黒マルチ区については、定植後2年目で発生本数5.1本、草丈長244cm、株径2.2cmと極めて良好な生育となった。地下茎をポットで育苗した苗を使用し、追肥をせずに栽培したが、マルチにより雑草の影響を排除できたことで、良好な生育となったものと考えられる(表2、図1)。

ウワバミソウの相対照度別の栽培試験では、生育可能な照度は3%~74%までかなり広範囲であるが、63%以上では生育不良となり、100%では枯死することがわかった。11%と27%は生育が良好であり、増殖稚苗数も多いことから生育に適した相対照度であると考えられ、スギ林内が栽培適地となることが示唆された(表3)。

育苗方法では、5mm以下の肉芽が多いが、小さくても95%以上の発芽率があり、9月には30cmを超える苗に成長することがわかった(図4)。

〔具体的データ〕

表1 イタドリ育成方法別(植栽株・施肥)栽培試験

試験区	植栽株	株数	施肥	定植後28ヶ月(H24.7.17)				収穫量(H24.4月)	
				欠株数	発生本数	草丈長(cm)	株径(cm)	本数	重量(g)
A-1	山引き株	20	なし	5	2.8 ± 1.6	187.7 ± 53.0	1.4 ± 0.6	2	132
A-2	山引き株	20	元肥・追肥	2	3.9 ± 2.2	214.4 ± 49.1	1.4 ± 0.4	11	682
B-1	実生苗	20	なし	2	3.5 ± 1.5	241.1 ± 43.4	1.6 ± 0.4	9	610
B-2	実生苗	20	元肥・追肥	2	3.9 ± 2.2	252.1 ± 39.5	1.6 ± 0.4	4	314
C-1	地下茎苗	20	なし	2	3.3 ± 1.4	216.1 ± 48.8	1.5 ± 0.5	11	675
C-2	地下茎苗	20	元肥・追肥	3	4.5 ± 2.0	220.7 ± 55.4	1.6 ± 0.3	21	1,173

※耕耘・畝立: 畝高(15cm) 畝幅 A120cm、B・C100cm、畝長500cm 株間50cm 条間 A60cm、B・C50cm 定植日: 平成22年3月15日
 測定値は欠株を除いた生育株の平均値。草丈長、株径は株の発生本数のうち最大の物を測定。
 収穫量は若芽の根元径1.5cm以上、長さ50cmを基準とした。

表2 マルチによる省力化栽培実証試験

試験区	植栽株	マルチ	株数	施肥	定植後16ヶ月(H24.7.17)			
					欠株数	発生本数	草丈長(cm)	株径(cm)
I	地下茎ポット苗	黒マルチ	10	元肥	1	5.1 ± 1.3	244.4 ± 24.6	2.2 ± 0.6
J	地下茎ポット苗	なし	10	元肥	0	2.7 ± 1.5	161.0 ± 42.0	1.3 ± 0.5

※試験区: 畝幅 100cm、畝長250cm、畝高15cm 2条植: 株間50cm 条間50cm 定植日: 平成23年3月16日
 地下茎ポット苗: 太さ10mm、長さ10cmに分割した地下茎をポットで育苗した1年生苗
 元肥: パーク堆肥(20L・6.7kg/m²)、発酵鶏糞(1.5kg/m²) 追肥: なし 黒マルチ: 厚さ0.02mm(ポリエチレン製)
 測定値は欠株を除いた生育株の測定値。草丈長、株径は、株毎の発生本数のうち最大の物を測定した。



図1 マルチ栽培(2年目)

表3 ウワバミソウ相対照度別栽培試験 H24.6.7調査(定植後13ヶ月)

試験区	相対照度(%)	供試数(株)	欠株(株)	草丈長(cm)	茎数(本/株)	茎径(mm)	増殖稚苗数	備考
A	100	5	5	—	—	—	—	枯死
B	74	5	0	29.8	1.3	7.2	8	
C	63	5	1	28.9	3.0	6.3	25	
D	27	5	0	34.5	9.8	7.5	208	
E	11	5	0	43.6	8.3	8.0	264	
F	3	5	0	33.5	4.5	6.0	156	

※供試苗: 肉芽育苗ポット苗(平成22年11月18日播種) 定植日: 平成23年6月10日(遮光ネット被覆: 同日)
 植栽区画: 1㎡(1.0m×1.0m)に5株、株間40cm 増殖稚苗数: 肉芽により自然増殖した稚苗数



図2 B区: 相対照度 74%

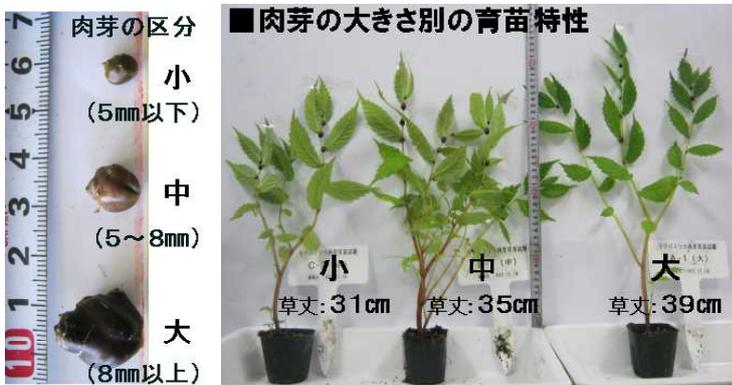


図4 肉芽の大きさ別の育苗特性



図3 E区: 相対照度 11%